

第73回国民体育大会

我らかく戦う

期 日 平成30年9月29日(土)～10月9日(火)
〈自転車競技 平成30年9月25日(火)～29日(土)〉
会 場 福井県福井市ほか

公益財団法人 北海道体育協会

我 ら か く 戦 う

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
陸上競技	全種別	5	個人3位、得点120点	女子100mで成年・少年A・少年B全ての年代で優勝を目指す。女子4×100リレー優勝、男子4×100mリレー上位入賞を目指す。他種目においても上位入賞が期待でき、総合で上位入賞を目指す。	福島 千里(セイコーAC) 御家瀬 緑(恵庭北高校) 石堂 陽奈(立命館慶祥高校) 森 周志(北海道栄高校)	小池 祐貴:アジア大会日本代表 福島 千里:アジア大会日本代表 御家瀬 緑:アジア大会日本代表、インターハイ100m優勝 森 周志:インターハイ400m優勝
サッカー	成年男子	3	団体4位	守備と攻撃のバランスを保ち北海道代表として戦術を立て勝ち上がる。	松尾 雄斗(十勝スカイアース・株あさの)、	
	女子	3	団体1位、得点7点	優勝	湊明穂(北海学園大学)	第71回国体 サッカー 女子 3位 ノルディニア北海道:2016年プレナスチャレンジリーグEAST3位、皇后杯 4年連続、6回出場
	少年男子	3	団体3位	相手がどこであっても自分達がボールを握る時間帯を多くできる展開にしたい。	大和蓮(恵庭南高校)、木戸柊摩(北海学園札幌高校)、佐藤陽成(札幌宮の丘中学)	大和蓮:北海道コンサドーレ札幌U-18
テニス	成年男子	5		全国大会の経験豊富な選手に実力を発揮してもらいたい。	齋藤 聖真(早稲田大学)、加藤 翼(早稲田大学)	6齋藤聖真:平成30年度 全日本学生テニス選手権大会 シングルス ベスト4
	成年女子	3		代表選手は、インカレで好成績をおさめている。ベスト8を目標に臨む。		丹野里佳子:平成29年度インカレシングルスベスト32、山下ちなみ:平成24年度インカレダブルスベスト4
	少年男子	3		代表選手は2人とも実績のある高校で活躍している選手。ベスト8を目標に臨む。		坂本新太:全日本ジュニアテニス選手権 ダブルスベスト8
	少年女子	4		代表選手は2人とも昨年に続く出場。経験を生かし、ベスト8進出を目指す。	照井 妃奈(札幌啓成高校)	照井妃奈:インターハイ シングルスベスト8 ダブルスベスト16 中3~3年連続出場 沖田優羽:中3~4年連続出場
ボート	成年男女	2		昨年5位入賞の木村若及ひ4位入賞の中田が優勝を目指す。それ以外のクルーは順位決定戦の進出を目標にポイント獲得を目指す。	木村 晶(日本大学)	木村 晶:U23代表
	少年男女	2		昨年、僅差で順位決定を逃した少年男子ダブルスカルで順位決定戦を目指す。		
ホッケー	成年男子	2	団体8位	今年のチームは、道外学生と道内学生(若手)を主体に構成しているので、運動量とチームワークで本州のチームに挑んでいきたい。	西野 巧真(関西学院大学)	西野 巧真:平成25年のインターハイベスト16
	成年女子	2	団体5位、得点20点	組み合わせ抽選の結果で対戦相手により大きく左右されることになる。		
	少年男子	3	団体5位、得点20点	全国トップチームは非常にレベルが高い。組み合わせによるが、四国・九州ブロックと対戦し、得点獲得に向けていきたいと考える。	布施 亮太(北海学園札幌高校)	布施 亮太:全日本U18 候補選手 布施葵、布施亮太:姉弟出場
	少年女子	2	団体5位、得点20点	3校からメンバーを選出しているが、それぞれの素質を活かし、わずかな練習の中でチーム力を上げていきたいと思っています。今大会までに、このメンバーでしっかりとゲーム慣れをし、1回戦突破を目指して日々取り組んでいます。		
ボクシング	成年・少年男子	4	団体8位、得点31.5点	成年:選手は、関東・関西大学リーグ戦で活躍しており、実績的には勝ち上がれる力はある。 少年:入賞が期待される選手はほとんどが1年生であるが、波に乗れば期待以上の活躍が期待できる。	細野恭兵(近畿大学) 本間一志(札幌工業高校定時制)、黒部竜聖(札幌工業高校)	細野兄弟:両名とも関西の大学に所属、兄恭兵は関西リーグで優勝した近畿大学のキャプテン 杉本聖弥:高校時都内ボクシング有名高校に越境入学(昨年度高校総体フライ級2位)今年度よりふるさと本間一志:高校総体H29準優勝H30 3位
バレーボール	成年男子	3	団体5位	将来トップリーグのチームへ就職が内定している学生を中心にメンバーを構成。若い力で勢いによって上位進出を目指す。		
	成年女子	2	団体9位	大学生らしく、全てのプレーに高い精度を求め、地道にサイドアウトを重ねるとともに、少ないブレイクチャンスを活かし、セットを取得し、1回戦突破を目指したい。		
	少年男子	4	団体5位	去年からのメンバーが残るため安定したチームに。上位進出を狙う。	米村恒輝、菊地光深、工藤泰我(東海大学付属札幌高校) 桜井誓也(北海道科学大学高校)	
	少年女子	3	団体7位	インターハイ北海道予選会で優勝した札幌大谷高校のチームを母体として、帯広南商業高校から3名、札幌山の手高校から2名の選手を加え、道内合宿・道外合宿をかさね、上位進出を目指している。	大森 愛(札幌山の手高校) 井澤 天音(札幌大谷高校)	大森 愛、井澤 天音:全日本ジュニアオールスタードリームマッチに選抜
体操	成年男子	2	団体12位、得点310点	ミスなくベスト4をとれるような試合ができれば、昨年を上回る可能性もある。		
	成年女子	2	団体10位、得点173点	今年度は、昨年度の国体と比較し、個々の競技レベルが上がっているため、昨年のチーム総得点149.050は大幅に超えることが予想されるので、しっかりと目標点を目指したい。	加藤 千晴(国士舘大学)	
	少年男子	2	団体25位、343.00点	競技レベルは低いチームですが、その中で出来る秘策を見つけ、出場チームの中で1番ミスのないチームにする。	大谷 直希(とわの森三愛高校)	大谷直希:2017・2018年全国ジュニア2部 種目別跳馬優勝、2年連続出場 酒井 貴一:2年連続出場
	少年女子	2	団体18位	チームとしてミスのない試合をし予選通過を目指したい。		
	新体操	3	団体8位、得点17.500点 個人15位、得点40.200点	今年のインターハイで自分達の力の出し切れず、悔いの残る結果となってしまったので国体でリベンジを果たします。		干上 柚月、野上 菜月:2年連続出場
バスケットボール	成年男子	3	団体5位	全国レベルとの差は縮まっているのでベスト4進出を目指す。	大釜 賢治(株式会社宮田自動車商会)	
	成年女子	2	団体3位、得点27.5点	サイズをカバーできるよう、組織としての精度を高めチャレンジする。		
	少年男子	3	団体16位	守備力の強化を図り、相手チームのミス誘発し、勝利を目指したい。	島谷 怜(東海大学付属札幌高校)	島谷 怜:第26回日・韓・中ジュニア交流競技会出場
	少年女子	4	団体3位、得点27.5点	ベスト4	東藤 なな子(札幌山の手高校)	東藤なな子:U-18選手
レスリング	成年男子	3	個人3位		清水 賢亮(拓殖大学) 大山 允長(青山学院大学) 山本 泰文(日本大学)	清水 賢亮:2017年度JOC世界大会 48kg 3位 大山 允長:2017年度 全日本学生選手権グレコ63kg級3位 山本 泰文:2017年度 全日本大学選手権 3位
	少年男子	2	個人1位			
セーリング	全種別	2	個人3位、得点6点	毎年継続して得点がとれるよう選手団 選手7名少数精鋭で特に今年こそ2種目入賞を目指します。	松苗幸希(北海道セーリング連盟)勝部 しずく(シュタイナー高校いずみの学校)	松苗幸希:東京国体成年女子SH・SR級 3位 勝部しずく:愛媛国体少年女子 LR級 4位
ウエイトリフティング	成年男子	3		二階堂、福本は得点獲得が期待できる。松本は得点圏に近い位置にいますので、入賞を目指しての戦いとなる。		
	女子					女子初?小野寺 美咲 女子53kg級
自転車	成年男子	3		ロードレース少年の部で入賞経験のある中川が技術面と精神面において充実していることから入賞の期待が持てることと、昨年少年1kmタイムトライアルで5位に入賞し、ひとまわり大きくなった大森光明がどこまでやれるか楽しみである。		
	少年男子	3		3名ともよほどの事がない限り、入賞は確実。特に佐藤のジャーク、角田のスナッチは優勝の可能性もある。	タカリ スミット(北海道栄高校) 佐藤 晃大(北海道土別翔雲高校) 角田 佳介(北海道札幌あすか高校)	タカリ スミット:インターハイ2018 トータル9位、スナッチ15位、ジャーク6位 佐藤 晃大:インターハイ2018 トータル4位、スナッチ9位、ジャーク6位 角田 佳介:インターハイ2018 トータル6位、スナッチ7位、ジャーク9位
	全種別	3				
ソフトテニス	成年男子	3	団体8位	3年前から導入された「シングルス」での勝敗が、チームの勝敗に大きくかかわってくる。シングルスをどう戦うのかプランをより鮮明に描き、チームとしての戦術の徹底を図る。	内海 大輔(関友クラブ)	71回国体、成年男子初優勝 72回3位 内海 大輔:72回国体メンバー
	成年女子	3	団体7位	ここ数年北海道を支えてきた中谷長内ペアを筆頭に、若い3名の大学生加えたチーム構成です。比較的メンタル面も強く接戦に持ち込むと優位な戦いができる。	長内 夏海(早稲田大学) 中谷 沙希(日体)	わかやま国体 第5位 いわて国体 第8位
	少年男子	5	団体1位	とわの森三愛高校を中心として、昨年度経験しているメンバーが残っている。また、トーナメントでは、力が拮抗しているチームが多く、練習と分析し戦いたい。	藤田大輝・亀田隆介ペア(とわの森三愛) 佐藤竜斗・守屋優人(とわの森三愛)	全国インターハイベスト16、全国選抜ベスト16 藤田大輝・亀田隆介ペア 北海道一般大会でも優勝するなど、経験・実績ともに全国でもトップレベル
	少年女子	4	団体8位	フリー出場ということもあり、入賞までに3回勝つ必要がある。シングルス選出の工藤(とわの森三愛)が持ち味を出して、1点を安定して取ることができれば、上位進出も可能である。	高橋映楽・北川風花(北海道科学大高)	高橋映楽・北川風花:高校総体団体優勝は逃したものの、個人で全道優勝をしたダブルスペア
卓球	成年男子	4	団体5位	5位入賞が目標。	久住 昭博(株式会社一世)、厚谷 武志(信号器材株式会社)	
	成年女子	4	団体5位	各選手がベストを尽くし、チーム一丸となり、ベスト8以上の成績を目指す。	鎌田 那美(早稲田大学)	鎌田 那美:H29全日学 女子シングルス ベスト16、女子ダブルス ベスト8
	少年男子	2	団体5位	個性あふれる戦型のチームで波乱を起こしたい。リーグ戦なので、各選手が1勝ずつあげて勝利を掴みたい。	向井 慧太(北海道科学大学高校)	
	少年女子	3	団体3位			高山 結女子・伊藤 佑希子:インターハイベスト32
軟式野球	成年男子	3		自分たちの戦いができると、1勝が見えてくると思います。		全国官公庁野球連盟中央大会ベスト8
相撲	成年男子	2		杉原、佐藤の若い力が全国にどれだけ通用するかがカギ。	長永 恒明(北海道クリーン開発株)	佐藤 勇輝:3年連続出場、杉原 健伸:2年連続出場
	少年男子	2		北海道予選上位3名を中心として他府県と互角に戦えるかがカギ	斎藤 昂生(北海学園札幌高校) 宇賀塚 皓平(北海道大野農業高校)	斎藤 昂生:3年連続出場 宇賀塚 皓平:3年連続出場

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
馬術	全種別	4	団体3位、得点6点 個人4位、得点47点	白井選手はオリンピック2回の日本代表経験がある。成年男子では障害、総合、馬場と上位入賞の活躍を期待している。	白井 岳(白井牧場不二ファーム乗馬クラブ) 林 伸伍(アイリッシュアラン乗馬学校) 楠木 貴成(ノーザンファーム)	白井 岳:アトランタ、シドニーオリンピック 出場 林 伸伍:全日本の馬場馬術大会 優勝 楠木 貴成:アジア大会日本代表経験有り
フェンシング	成年男子	5	団体4位	サーブル種目でできるだけ上位ポイントを獲得し、総合順位上位を目指す。	森 翔一(桜門剣友会) 中島 哲雄(カネシメ高橋水産株式会社)	小林 善洋、中島 哲雄:2012年ぎふ清流国体 団体5位 森 翔一:ワールドカップスペイン大会出場(2018)、モスクワグランプリ出場(2018) 森 翔一、森 彩恵:兄弟出場
	成年女子	4	団体8位	フルーレ種目でできるだけ上位ポイントを獲得し、総合順位上位を目指す。	森 彩恵(北海道大野記念病院)	森 彩恵:2014年全日本選手権大会 8位、2014年国体 7位、世界大会出場経験者 泉澤 カンナ:世界大会出場経験者
	少年男子	4	団体8位	フットワークを生かしたダイナミックなフェンシングでテクニク面をカバーし、上位を目指す。	松田 頼弥(札幌光星高校) 阿部 陽馬(札幌大谷高校)	阿部 陽馬:フルーレ団体戦ベスト8
	少年女子	2	団体16位	初戦をうまく戦うことができると、自信をもって戦うことができると考えられる。	高橋 彩夏(札幌光星高校)、堀尾 乃愛(札幌大谷高校)	
柔道	成年男子	4		若手、ベテランで構成されたバランスのとれたチームである。各自が役割を果たせば上位も狙える。	浅利 昌哉(総合警備保障株式会社)、帯川 雄大(北海道警察本部機動隊) 高田 大樹(星槎道都大学)	浅利 昌哉:2015世界ジュニア 66kg優勝 帯川 雄大:昨年度全日本選手権出場 高田 大樹:本年度全日本選手権出場
	女子	3	団体5位	5人全員、それぞれが自分の役割を果たし責任を持って戦う。	田嶋 由佳(東海大学付属札幌高校)	田嶋 由佳:H29年度インターハイ70kg級準優勝
	少年男子	4	団体3位、得点30点	北海道として強化の見かえしを図った、2回目の代表戦となるために、結果にこだわっていききたい。最低ベスト8が目標。	鷺見 仁義(札幌山の手高校) 杉本 将一朗(北海道高校)	鷺見 仁義:全国高等学校柔道選手権大会 60kg3位 杉本 将一朗:全国柔道選手権大会81kgベスト8
ソフトボール	成年男子	3	団体5位、得点20点	打撃を中心に打ち勝つソフトボールをしていきたい。	立花 佑、小松 徳(北海道大学)	立花 佑:4年連続出場 竹中 大道:2年連続出場
	成年女子	3		1プレー1プレーを堅実にこなし、1チャンスでしっかりと得点し勝利に結びつけます。	小泉 幸代(社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院)	
	少年男子	1	団体16位	道内5校の生徒でチームを結成しましたが、日頃の練習で培ったチームワークで1勝を目指して頑張ります。		
	少年女子	4	団体3位	投手中心に守りきることができれば、7回までに必ずチャンスをつかむことができる。	中川 唯、竹田 采実、大須賀 まどか(とわの森三愛高等学校)	
バドミントン	成年男子	4	団体4位	昨年も出場している東野、渡部を中心に若い力が加わったので、経験と勢いで接戦を勝ち上がるチームにはなっていると思う。ベスト4を狙って頑張りたい。	三枝 力起(コンサドーレ) 東野 圭悟(JR北海道)	東野・渡部ペア:昨年の全日本総合 ダブルス ベスト16
	成年女子	3	団体5位、得点7.5点	今大会、成年女子は16チームの出場であり、入賞までの道程に近い反面、初戦から強敵と対戦することとなる。初戦をいかに勝ち上がるかが今大会のポイントとなる。	池田 有希(北翔大学)	安藤 里奈:2017年全日本社会人 ダブルスベスト32、ミックスベスト8、2年連続出場 池田 有希:2017全日本学生 シングルス、ダブルスベスト32
	少年男子	3	団体5位	1年次から全国大会経験のある佐藤・蝦夷森がどこまで安定した試合が出来るか、また、2年生の上山がどれだけ佐藤・蝦夷森を勝負所まで温存させておけるかが鍵。	蝦夷森 駿(旭川実業高校)	佐藤 陸:2018年インターハイ ダブルスベスト16 上山 昇大:2018年インターハイ ダブルスベスト16 蝦夷森 駿:2017年JOC ベスト32、2018年インターハイ シングルスベスト32
	少年女子	3	団体3位	何としても最初のダブルスを勝たないと勝負にはなりません。試合まではシングルス強化をして、選手三人の役割をしっかりと決めて目標を高め設定して強化する。3名のうち内山が国体経験があるため軸にして考えていきたい。	内山 真希、佐藤 萌(深川西高校) 村田 梨於(とわの森三愛高校)	内山・佐藤組:選抜大会ダブルス3位、インターハイダブルス5位 内山 真希:2年連続出場
弓道	成年男子	3	団体8位 得点6点	2回目出場の1立が大会の雰囲気呑まれず自分の射をすれば、後ろの二人は初出場ではあるが実力を発揮できると考える。	中田 祥(㈱光明商会北海道支店)	
	成年女子	2	団体8位 得点3点	1番・2番は初出場で緊張し合宿でも中々、実力を出せていなかった。1回目で波に乗っていききたい。	紺矢 梓(㈱損保ジャパン日本興亜)	
	少年男子	4	団体7位 得点18点	近的競技:練習通りに順調に的中を伸ばせられれば上位入賞も狙える。 遠的競技:射技の安定を図り、落ち着いて行射出来れば、予選通過も叶う。	兼田 響(札幌静修高校)	
	少年女子	4	団体7位 得点18点	チームワークが良いのでお互いにミスのカバー出来る。あきらめない粘りの戦いを期待したい。		
ライフル射撃	全種別	4	団体7位	各種目で入賞を目指せる選手が揃っており、昨年に引き続き団体での入賞を目指す。	中野泰寛、田中克幸、佐藤友也 安藤翔(北海道警察本部機動隊)	佐々木瑠杏:東日本学生選手権大会優勝 佐藤友也・櫻子:夫婦ともにAPで入賞を目指す 安藤翔:今年度世界大会日本代表選手
剣道	成年男子	5	団体3位	先鋒、次鋒線で有利な戦いをしていきたい。		
	成年女子	3		フレッシュなチームで大会優勝を狙う。		
	少年男子	4	団体3位	3年生を中心にチームが一丸となって戦いたい。		
	少年女子	4	団体5位	2年生ながら大将を務める、濱田選手を軸に、全員が一丸となって戦うものと思います。	尾張陽菜、濱田裕佳(札幌日本大学高校)、廣瀬果音(東海大学付属札幌高校)	
ラグビーフットボール	成年男子	3	団体3位	昨年決勝トーナメント出場を果たし、今年は更にうえのベスト4を目指そうと思う。	靱山 拓己(㈱パルテック) 諸橋 竜太(土幌町農業協同組合)	
	女子	4	団体4位	高校生も若干名入っているが、経験のある社会人選手を中心にまとまりを見せて、予選リーグを突破し、決勝トーナメントでベスト4を目指したい。	ヒューズシェアリアイダ(なの花薬局) 木村 あや(北海道文教大学) 中澤 佑衣(立正大学)	中澤孝弘(監督)、中澤佑衣(選手):親子出場 中澤佑衣:高校生時代、日本ラグビー協会アカデミー選手
	少年男子	4	団体5位	北海道らしい粘り強いディフェンスでロースコアのゲームを展開し、上位進出を狙う。	ヴェアタモエフォラウ(札幌山の手高校) 湯口 龍雅(旭川龍谷高校)	一昨年の岩手国体7位
山岳	成年男子	4	団体5位、得点12点	杉本 怜選手と國谷 斗馬選手は過去にもボルタリングで1位で入賞しており、今年も天皇杯に入賞できる力があると見ている。	杉本 怜(マイナビクライマーズ)	杉本 怜:2018年ワールドカップ・ボルタリング ヴェイル大会 優勝
	成年女子	3	団体8位、得点3点	リード競技よりはボルタリング競技の方が二人とも得意なので、なんとか決勝目指して頑張っていきたい。	北谷 未紗(株式会社秀岳荘)	北谷 未紗:少年女子から5年連続出場、JOCジュニアオリンピックカップ ジュニア女子10位、 ボルタリングユース日本選手権鳥取大会2017 ユースA女子15位
	少年男子	3	団体7位、得点6点	今年、ボルタリングユース日本選手権で表彰台にのった坂本、その坂本を北海道ブロック予選会リード競技において上回った竹内。お互いの実力を発揮することができれば、ボルタリング・リード競技共に決勝進出が期待できる。	坂本 大河(北海道札幌平岸高校) 竹内 悠真(立命館慶祥高校)	第4回ボルタリングユース日本選手権鳥取大会2018ユースA 坂本 2位、竹内 16位 第21回ジュニアオリンピックカップ南砺2018 ユースA 坂本 14位、竹内 19位 坂本・竹内ペア:2年連続出場
	少年女子	2	団体8位、得点3点	本国体までにはトレーニングを重ね、経験不足を感じさせず、入賞できるよう挑む。	東 さくら(北海道遠軽高校) 福井 ころこ(七飯町立大中山中学校)	東 さくら:2018 日本ユース選手権ユースA・ボルタリング26位 福井 ころこ:The North Face Cup 2018 WD3クラス 31位
カヌー	スプリント	1				大橋 祐翔、大橋 玲奈:兄弟出場
	スラローム	2				
	ワイルドウォーター	2				
	少年女子	2		少年男子・女子の選手が少しずつタイムを上げているので、予選突破できる選手が出てきそうである。	照井 咲頼(北海道南富良野高等学校)	照井咲頼:72回国体少年女子カヌー・スプリント・カヤックシングル200m決勝
アーチェリー	全種別	4		成年、少年とも女子選手の成長が著しく、上位入賞が見込まれる。	中村純銘・佐藤萌菜(日本体育大学) 中村美優(早稲田大学)、	中村純銘:昨年度インカレ優勝 中村美優:U20ナショナルチームメンバー、昨年度インターハイ団体優勝 佐藤萌菜:昨年度インターハイ団体優勝
空手道	全種別	4	団体5位、得点12.5点	世界ランキング4岩本選手を中心に、女子の選手層が非常に厚いと考えられる。本大会については皇后杯上位入賞を目指して準備を進めたい。	岩本衣美里(株クリーンコーポレーション)、 住友優里(同志社大学) 坂本杏樹(恵庭南高校)	岩本衣美里:世界ランキング4位 住友優里:第56回西日本大学空手道選手権大会女子組手 準優勝 坂本杏樹:72回国体少年女子形個人5位
なぎなた	成年女子	3	個人8位	試合、演技共に経験豊富なチームなので、落ち着いた試合運びで挑みたい。		
	少年女子	4	個人8位	演技:落ち着いた、若さあふれる気持ちで挑む、試合:試合時間を十分に使い、相手に技術・心理共に競り勝ちたい		
	成年男子	3		前回大会では、レーンのコンディションの把握に苦しみ、投球前の立ち位置、ボールの投球コースなどを探っているうちにゲームが終了してしまった。この反省を踏まえ、チームでの一層の情報交換と共有を図り、早期のコンディション把握に努め、レベルの高いゲーム展開で入賞を目指したい。		保木 慎吾:12回連続出場
	少年男子	3	団体8位、得点3点	五十嵐が安定した投球で一定の成績を出すこと、また能呂の爆発力に期待する。		保木 絵理:9回連続出場 工藤 ひかる:少年女子団体 4位入賞(2年前)
ボウリング	少年女子	2	団体10位 個人7位、得点2点	個人戦では、高橋選手は入賞できる実力があり、3度目の国体出場であるので入賞を期待している。団体戦では、平川選手が出場経験はないが、着実な投球をする選手なので高橋選手が引っ張って、団体戦でもいい成績を出してくれることを期待している。	高橋 咲紀(函館大妻高校)	高橋 咲紀:第50回全日本新人ボウリング選手権大会 少年女子の部 優勝、3年連続出場

ゴルフ	成年男子	4	団体3位 18点	片岡選手はアンダでチームスコアを上げ、チームトータルもアンダーの可能性が大きい。72回大会に続き上位入賞を狙う。	片岡尚之・長谷川大晃(東北福祉大学)	片岡尚之:日本アマチュアランキング17位 72回大会優勝
	女子	4	団体4位 15点	全員がアンドースコアを出せる実力があり、チームスコアをアンダースコアで積み重ね、上位入賞を狙いたい。	政田夢乃(北海学園札幌高校)	政田夢乃:日本ジュニアゴルフ選手権2位、H29全国高校ゴルフ選手権大会 優勝
	少年男子	3				
トライアスロン	成年男子	4	個人8位、1点	北海道代表としての誇りと意識を高く持ち、最低1名は入賞を目指してポイントを獲得できるようベストなコンディションに持っていき、事前にレース展開を読んで対策を練って挑む。	伊藤 将隆(順天堂大学)	
	成年女子	3	個人20位	ベテランの沢田は北海道のトップアスリートとして約20年になり、20位以内に入る可能性が高い。中村はふるさと選手として出場、年齢的にも厳しいレースとなりそうである。	沢田 愛里(株式会社イーバイティールージ)	沢田 愛里:2016岩手国体女子18位